
魔法少女リリカルなのは～この世全ての悪～

ヘンペルの鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜この世全ての悪〜

【Nコード】

N7766M

【作者名】

ヘンペルの烏

【あらすじ】

ある世界で悪逆の限りを尽くして殺された六道闇里

壊れた彼女の魂を物好きな神様が拾い、ある世界に突き落とす

それは「なのは」の世界に良く似て違う世界

彼女の介入で世界はどう変わる？

プロローグ：世界を嫌う少女（前書き）

初めまして、この小説を読むに当たっていくつかご注意

＊主人公が悪

＊犯罪を普通に犯す

＊第三勢力的介入

＊原作は跡形も無く木っ端微塵

上の条件を満たした方のみお読み下さい

嫌な方は、戻るへどうぞ

作者は初心者なので、暖かい目でみてください

プロローグ：世界を嫌う少女

世の中はくだらない・・・

それは私が物心ついた時から感じていた事だ

今からしてみれば、それがどれだけ歪なのが良く分かる

それでも、今でもその考えは変わらない

これからも変わることはないだろう

世の中はくだらない・・・

人は同じ事を幾度となく繰り返し、偽善を振りまき『世界』を徐々に壊していく

吐き気がする

この世界で、もっとも必要なのは人間だ

人は自分勝手に、強欲で、己のためにはいくらかでも汚い事をする

人のために何かをする人間には吐き気がする

それは己を上として他者を見下しているのと変わらない

偽善にもほどがある

そして、自分達に都合のいいようにルールを創る

それを世界に撒き付ける

私から見れば、善より悪のほうが遥かに純粹だ

だから、私は悪を選ぶ

世の中のニンゲンなど知るものか

私は私の好きなように行動する

人を殺して何が悪い

弱者が強者に喰われるのは自然の摂理だ

人だけがソレから外れるほうがおかしいのだ

私は自分が思うことをそのまま行動に移しただけだ

それなのに世界は私に残酷だ

人の決めたルールに縛られ、それに準して私を追い詰める

「止まれっ！！！」

私の目の前には、バカみたいに大勢の警察がこちらに拳銃にんぎょうを向けおもちゃて
いる

本当に世界は残酷だ

だが、私は後悔なんてしていない

私がしてきた事は自然なことだ、ルールに縛られたあいつらがおかしいと私は知っているのだから

私は口を歪めて晒う

これだけで、警察は脅えるのだから可笑しくてしょうがない

私はその警察に向かつて駆け出す

慌てずニンギョウを一匹づつ殺していく

なんて脆いのか、こんな奴らがこの世界を跋扈しているかと思うと怖気が走る

もう何人殺したか、気付けば多くの銃が私に向け直されていた

そして、続く幾重にも重なる発砲音

これは流石に私にも無理だと気付く

だが、こんな瞬間なのに私は晒っている

私にはこんな世界はくだらない

排除してくれるなら、それこそありがたい

けれど、想う

世界は最後まで私に優しくは無かった、と

20XX年、世界中を震撼させた大量殺人犯『六道闇里』はこうして殺された

六道に滅ばされた国は20を超え、殺された人数はかなりの数におよんだ

これは史上最悪の出来事だと言える

そして、もっと重要なのは六道はわずか18歳とゆう年齢でこの事件を起こしたことだ

これにより、世界を縛る枷ルールは、人の都合のいいようにまた変わったのだ

しかし、誰も気付きはしなかっただろう

彼女を助けた想像物かみが居た事に

プロローグ：世界を嫌う少女（後書き）

いかがでしたでしょうか？

まあ、こんなんじや感想も何も無いでしょうから

もう一つ、続けてあげます

ご感想やご意見などいただけるとありがたいです

第一話：物好きな神様（前書き）

第1話です。

合いも変わらず、駄文ですがどうぞ

第一話：物好きな神様

・・・おい、起きろ・・・

何処からか、声が聞こえる

・・・起きんか・・・おい・・・

その声が私の意識を覚醒させた

「・・・・・・・・何処？ここ」

私が目を覚ますと、そこま真っ黒な空間だった

何処も彼処もただただ黒い・・・漆黒の世界だった

「やっと目が覚めよかったか」

何処か年寄り臭い、皺枯れた声が横から聞こえた

振り向けば、そこには文字通りの老人が宙に浮いていた

「あんた、何者？」

「ほう、普通はこんな状況に陥れば混乱するものだが」

「しても、何の得にもならなにでしょ？」

「確かにな」

目の前の老人は私の言葉に頷きながらそう答えた

「で、さっきの質問の答えは？」

「ん？ そうじゃな、お主らが言うところの神様かの？」

「はっ、神なんてものはニンゲンが現実逃避するために造った贋物よ？」

「そうじゃな、確かにわし等はの存在はあやふやじゃが、わしは確かにここにおるよ」

「……」

私は黙って老人^{かみ}を見る、確かにそこらのニンゲンよりは神々しい感じがしないでもない

「それで、その贋物^{かみ}が私みたいな大悪党に何の用？」

「お主を救ってやると言ったらどうするかね？」

「何を……言ってるの」

「お主は人としては言い方は悪いが壊れておる、ものの見事にな」

「言われなくても、自覚はあるわよ」

「じゃが、そこまで壊れておると輪廻の輪に乗せられんし、地獄にすらつれて行けん」

「へえ、それは私から見れば好都合なんだけど？ あんな世界なんてもう生まれたくないし、でも地獄は見てみたかったかも」

「こっちは困るのじゃよ、それにお主には人として欠けているものが多すぎる」

「足りなくて結構なんだけど、ニンゲンなんてくだらない」

「まあ、わしの話を聞け」

その声には、独特の凄みが宿っていた

「いいわ、聞くだけ聞いてみましょう」

「話分かる女子で助かったよ、まずお主『七つの大罪』と『七元徳』とゆうの聞いた事はあるか？」

「無い、勉強なんてニンゲンが発明した洗脳具みたいなものじゃない。私は学ぶものは世の中を見て無いと判断したから」

「勉強をせず、あれだけの事が出来るのならお主は天才の部類じゃない。まあ、それは置いてこう」

贗物^{かみ}は一つ咳払いをして、説明しだした

「まず、七つの大罪。これは人ならば必ずもち合わせておるものが、過ぎれば大罪になる感情じゃ。」

それぞれ、『暴食』『嫉妬』『色欲』『強欲』『怠惰』『傲慢』『憤怒』じゃ。おぬしの場合はコレが普通の人間より高すぎる。」

「生き物は本能で生きているものじゃない？ 私はソレに従ってきただけよ」

「そのようじゃな、次に七元徳じゃが」

そういつてまた咳払いをする贗物^{かみ}

「これは七つの大罪の逆じゃ、人が持ちえる七つの徳。それぞれ、『正義』『賢明』『節制』『剛毅』『信念』『希望』『慈愛』じゃな。しかし、お主にはこれらが欠けておる・・・と言うよりもとり存在しないのじゃ」

「そうでしょうね、私はそんな気持ちを抱いた事がない。だってそんな気持ちは必要ないから」

「それが問題なんじゃろうて、じゃからわしはお主に人間らしい心を持って今一度この世界に来てもらいたいのじゃ」

「じゃあ、何？ また私にあんな下らない世界に行けって？」

「いや、お主がいた世界では無い。それに良く似た世界じゃよ」

「何処も一緒でしょ」

「お主にはその世界で、七つの大罪を抑え、七元徳を身に着けてもraithたいのじゃ」

「嫌よ、そんな何の特にもならない事」

「つべこべ言わずに行けっ!! お主に丁度よい相棒をつけてやるから」

「はぁ、何で強制なのよ? 私が一番嫌いなのはニンゲンだけど、その次に嫌いなのが束縛なのよっ!?!」

「何も聞こえんなぁ、そんな事より早お行け」

そう言って贗物^{かみ}は私を突き落としたのだ

「この贗物っ!! 次に会ったら、覚えてなさいっ! 細切れにしてやるからっ!?!」

そんなことを叫びながら私は漆黒の闇に堕ちていった

第一話：物好きな神様（後書き）

はい、そんな感じで第1話

どうでしたでしょうか？

えっ？『なのは』や弓兵^{アーチャー}が出てきて無い？

すみませんorz

作者の文才は限りなくゼロなので、次には必ず出しますから

それでは、また次回〜♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7766m/>

魔法少女リリカルなのは～この世全ての悪～

2011年10月7日03時54分発行